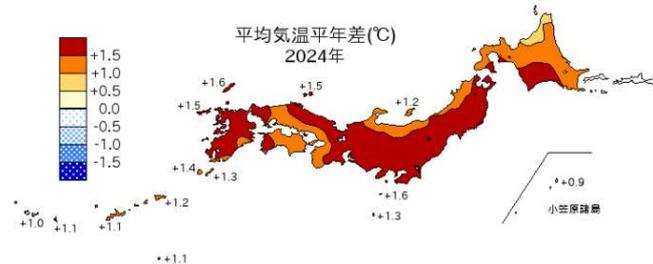


令和6年地球温暖化影響調査レポート（概要）

- 「地球温暖化影響調査レポート」は、都道府県の協力を得て、地球温暖化の影響と考えられる農業の生産現場における高温障害等の影響、その適応策等について、報告のあった内容を取りまとめたもの。（「農林水産省地球温暖化対策総合戦略」（平成19年6月策定）及び「農林水産省気候変動適応計画」（平成27年8月策定）に基づき、平成19年から取組みを開始。）
- 「令和6年地球温暖化影響調査レポート」の調査対象期間は、令和6年1月～12月である。

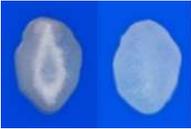
令和6年の気象の概要

年平均気温は全国的にかなり高く、特に東日本、西日本、沖縄・奄美で記録的な高温となった。
北日本はかなりの多照、東日本、沖縄・奄美はかなりの多雨となった。



発生報告の多い農畜産物における影響と適応策の実施状況

表中の割合は、影響の有無を面積ベース（畜産は飼養頭羽数）で調査し、算出している。

	影 響					適 応 策
水 稲	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂期以降の高温による白未熟粒が発生し、西日本では5～6割、東日本では3～4割の地域に影響がみられた。 ・また、夏季の高温によるカメムシ等の虫害も発生し、東日本では2～3割の地域で影響がみられた。 	全国	北日本	東日本	西日本	<ul style="list-style-type: none"> ・白未熟粒の発生抑制のために「高温耐性品種の導入」が拡大 ・このほか水管理の徹底、穂肥施用等の施肥管理の徹底や、適期防除の実施など 
	白未熟粒の発生	3～4割	1～2割	3～4割	5～6割	
	虫害の発生	1～2割	1～2割	2～3割	1～2割	
果 樹	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごでは、花芽形成期～開花期の高温による着果不良が発生し、北日本では6～7割の地域で影響がみられた。 ・ぶどうでは、果実肥大期以降の高温による着色不良・着色遅延が発生し、西日本では4～5割の地域で影響がみられた。 ・うんしゅうみかんでは、果実肥大期以降の高温による日焼け果が発生し、西日本では4～5割の地域で影響がみられた。 	全国	北日本	東日本	西日本	<ul style="list-style-type: none"> ・りんご、ぶどうの着色不良・着色遅延対策として、着色の優れた品種や着色を気にしなくてよい品種の導入など（ぶどうでは、黄緑系品種の導入など） ・日焼け果対策として、りんごでは遮光資材の活用、うんしゅうみかんではカルシウム剤の散布、樹冠表面の摘果、遮光資材の活用など 
	りんご 着果不良	4～5割	6～7割	-	-	
	ぶどう 着色不良・着色遅延	2～3割	2～3割	2～3割	4～5割	
	うんしゅうみかん 日焼け果	3～4割	-	1～2割	4～5割	
野 菜	<ul style="list-style-type: none"> ・トマトでは、高温・少雨により着花・着果不良が発生し、東日本及び西日本では4～5割の地域で影響がみられた。 ・いちごでは、高温により花芽分化の遅れが発生し、西日本では5～6割、東日本では4～5割の地域で影響がみられた。 	全国	北日本	東日本	西日本	<ul style="list-style-type: none"> ・トマトの着花・着果不良対策として遮光資材や遮熱剤の利用、細霧冷房・循環扇、新品種の導入など ・いちごの花芽分化対策として遮光資材や遮熱剤の利用、新品種の導入、クラウンの冷却など 
	トマト 着花・着果不良	4～5割	2～3割	4～5割	4～5割	
	いちご 花芽分化の遅れ	4～5割	3～4割	4～5割	5～6割	
畜 産	<ul style="list-style-type: none"> ・乳用牛では、高温による乳量・乳成分の低下が発生し、東日本では3～4割、西日本では2～3割の地域で影響がみられた。 ・採卵鶏では、高温による産卵率・卵重の低下が発生し、東日本では2～3割の地域で影響がみられた。 	全国	北日本	東日本	西日本	<ul style="list-style-type: none"> ・乳用牛の乳量・乳成分の低下対策として牛舎の送風・換気など ・採卵鶏の採卵率・卵重の低下対策として鶏舎の送風・換気など 
	乳用牛 乳量・乳成分の低下	1～2割	1割未満	3～4割	2～3割	
	採卵鶏 採卵率・卵重の低下	1～2割	1割未満	2～3割	1割未満	

温暖化による新たな品目への取組

かんしょ（北海道、秋田）：北海道では農業試験場が栽培マニュアルを整理。2023年の栽培面積は100ha。
レモン（長野、鳥取、広島）：広島では瀬戸内海島しょ部を中心に極早生みかんからレモンへの品目転換を推進。2021年の栽培面積は315ha。
レモン以外のかんきつ類：すだち（山形）、うんしゅうみかん・ゆず（鳥取）
その他の品目：もも（青森）、葉ボタン（山形）、オクラ（京都府）



かんしょ

【水稲の高温耐性品種の作付状況】

- ・ 近年、水稲の高温耐性品種を導入する都道府県は増加しており、令和6年産では42府県で導入。
- ・ 導入府県の増加等に伴い高温耐性品種の作付面積は増加傾向で推移しており、令和6年産の作付面積は20.6万ha、主食用米に占める高温耐性品種の割合は16.4%となった。

○ 都道府県別にみた水稲高温耐性品種の作付面積割合及び1等米比率（令和6年産）

単位：%

都道府県	主食用米に占める 高温耐性品種の 作付面積割合	1等米比率		主な高温耐性品種
		うるち玄米 ①	うち高温耐性品種 ②	
青森県	16.7	93.7	94.0	はれわたり
宮城県	9.2	89.8	93.9	つや姫
秋田県	2.4	88.7	97.2	サキホコシ、秋のきらめき
山形県	30.0	92.8	97.5	つや姫、雪若丸
福島県	0.0	88.1	94.7	にじのきらめき
茨城県	6.5	55.4	72.6	にじのきらめき、ふくまるSL、一番星
栃木県	24.5	86.1	87.7	とちぎの星
群馬県	6.0	68.7	74.9	にじのきらめき、いなほっこり
埼玉県	26.2	38.2	53.6	彩のきずな、えみほころ
千葉県	32.7	78.3	78.5	ふさこがね、ふさおとめ
神奈川県	8.1	16.4	10.4	てんこもり
新潟県	29.1	77.9	89.3	こしいぶき、新之助、ゆきん子舞、にじのきらめき
富山県	26.1	90.7	94.8	てんたかく、富富富、てんこもり
石川県	33.8	88.0	89.8	ゆめみづほ、ひやくまん穀
福井県	46.1	88.5	92.8	ハナエチゼン、あきさかり、いちほまれ
山梨県	0.9	72.9	38.6	にじのきらめき、つや姫
長野県	0.3	93.1	95.6	にじのきらめき
岐阜県	2.6	47.1	11.8	にじのきらめき、あきさかり、清流のめぐみ、つや姫
静岡県	33.0	59.3	66.4	きぬむすめ、にこまる、にじのきらめき
愛知県	2.4	37.4	52.6	なつかり、あいちのこころ、にじのきらめき
三重県	2.7	26.1	83.8	なついろ、三重23号（結びの神）
滋賀県	11.5	53.3	84.4	みずかがみ、きらみずき
京都府	1.0	64.2	82.6	京式部
大阪府	17.0	44.1	59.9	きぬむすめ、にこまる、てんたかく、恋の予感
兵庫県	7.9	37.6	52.8	きぬむすめ、Hyogo Sake 85(酒造好適米)
和歌山県	35.4	11.7	16.5	きぬむすめ、にじのきらめき、にこまる、つや姫
鳥取県	39.3	51.0	60.7	きぬむすめ、星空舞
島根県	44.7	54.0	50.2	きぬむすめ、つや姫
岡山県	24.7	56.7	65.7	きぬむすめ、にこまる
広島県	18.7	78.2	79.1	あきさかり、恋の予感
山口県	18.7	71.5	84.1	きぬむすめ、恋の予感、にじのきらめき
徳島県	30.4	33.2	25.1	あきさかり、ハナエチゼン、にじのきらめき
香川県	27.8	19.5	47.6	あきさかり、おいでまい、にこまる、にじのきらめき
愛媛県	18.7	31.0	49.4	にこまる、ひめの凜、にじのきらめき
高知県	7.7	14.6	23.4	にこまる、よさ恋美人
福岡県	20.7	19.8	69.7	元気つくし、実りつくし
佐賀県	56.3	52.5	59.9	さがびより、夢しずく、にじのきらめき
長崎県	47.4	42.4	57.3	なつほのか、にこまる、つや姫
熊本県	13.7	26.8	43.9	くまさんの輝き、くまさんの力
大分県	23.9	37.7	49.8	なつほのか、つや姫、にこまる
宮崎県	4.3	29.0	19.3	夏の笑み、おてんとそだち
鹿児島県	6.0	24.5	41.7	なつほのか
全国	16.4	75.9	80.2	

注：令和6年産の1等米比率は、農林水産省「令和6年産米の農産物検査結果」令和7年3月31日現在（速報値）である。

○ 水稲高温耐性品種の作付面積及び主食用米に占める割合の推移

